

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月7日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03646

研究課題名(和文)日本の企業・アメリカの企業・ドイツの企業 - 総合電機企業の比較史的研究 -

研究課題名(英文) Japanese Companies, American Companies and German Companies: Comparative-Historical Research on General Electrical Companies

研究代表者

谷口 明丈 (Taniguchi, Akitake)

中央大学・商学部・教授

研究者番号：20103228

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀を代表する産業である電気機械産業において今日まで代表企業であり続けた総合電機企業、日立とゼネラル・エレクトリックとシーメンスの3社を中心に(必要に応じて東芝、ウェスティングハウス、AEGなども)取り上げ、その誕生から今日までの期間の、「戦略と組織構造」、「機能」、「社会関係」について比較検討し、日本の企業・アメリカの企業・ドイツの企業の特徴を浮き彫りにするとともに、3国の企業の競争と協調、相互浸透の「国際関係経営史」にまで分析を進め、さらに20世紀企業あるいは総合電機企業としての共通の特性も明らかにすることができた。また、組織能力の研究の重要性が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、考慮すべき変数を限定し、異質性と同質性を際立たせるために、分析対象を電機産業に絞り込んで徹底的に比較検討するという新たな方法によって日米独の企業あるいは経営の比較史的研究を試みた。また、企業を「関係の束」と捉えることによって従来の「戦略=組織」分析を超えようとし、さらに2国間ではなく、より複雑な3国間の国際関係経営史を開拓しようとしている。

本研究は電機産業史、電機企業経営史を新たな水準に引き上げるだけでなく、比較経営史、国際関係経営史に新しい地平を開き、さらに比較資本主義史の分野にも大きな貢献をなすと考える

研究成果の概要(英文)：This research focuses on three companies, Hitachi, General Electric, and Siemens, which are general electric companies that have continued to be the leading companies in the electrical machinery industry, which represents the twentieth century industries. By comparing and examining "Strategy and organizational structure", "Functions" and "Social relationship" in the period from its birth to today, this research highlights the characteristics of Japanese companies, American companies and German companies, and also analyzes the competition, coordination and mutual penetration of companies in three countries, which will contribute to "International business history". Furthermore, it was carried out for the purpose of comprehensive research that clarified common characteristics as a twentieth century company or a general electric company.

研究分野：経営史

キーワード：経営史 比較経営史 総合電機企業 社会関係 国際関係経営史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

各国資本主義の多様性あるいは各国の企業経営の異質性についてこの間多くの議論がなされてきたが、アマーブルのように各国資本主義の発展経路と現状の異質性を強調する議論から、チャンドラーのように発展の論理の共通性の中での差異を強調する議論までその幅は広い。また、多様性を示すために、企業経営の分野に限っても、ガバナンスの構造から生産システムまで様々な論点を取り上げられてきた。時には印象的な議論が先行したり、特定の産業、特定の次元の現象が一般化されたり象徴化されて語られることもあった。逆に、同一産業の同一次元の現象の綿密な比較という作業も十分にはなされてこなかった。研究代表者はじめ本研究の参加者の何人かが関わった研究(科研費(H21-23))においても国際比較が試みられたが、産業と時代を統一することができず、隔靴搔痒の感を免れなかった。2016年に開催された World Congress of Business Historyが「同じ産業で同様の規模をもった事業は文化を超えて同質なものになるのかあるいは異質なのか」という問題を重要テーマの1つとしたのもこのような研究状況を反映していると思われる。本研究では日本とアメリカとドイツの総合電機企業、なかでも日立とゼネラル・エレクトリック(GE)とシーメンスに焦点を当てて(必要に応じて東芝、ウェestingハウス、AEGなども)その歴史的展開の徹底的な比較研究を行い、日本の企業、アメリカの企業、ドイツの企業の同質性と異質性によって来たとするところを明らかにする。電機産業に限定して研究を行うのは、比較的資料が入手しやすいという理由以外に、産業を限定することによって産業をまたがった研究に比べ考慮すべき変数を限定できるというメリットがあるからであり、また電機産業は第二次産業革命で生み出された産業なので、古くからある産業に比べて歴史的な、あるいは経路依存がもたらす変数を限定できるからでもある。さらに電機産業は知識依存型の産業であるため共通の知識基盤の上に成立しており、国をまたいで類似性の強い発展の経路を取り、同質の企業構造を形成しやすいと考えられるが、それゆえ、逆に異質性をもたらす要因を確定しやすくなると考えられるからである。また、電機産業は20世紀を代表する、そしてそれぞれの国を代表する産業であり、さらに、21世紀においてもそうあり続ける産業と考えられ、20世紀さらに21世紀の資本主義、あるいは企業経営を比較検討するのに最もふさわしい産業であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀を代表する産業である電気機械産業において今日まで代表企業であり続けた総合電機企業、日立とゼネラル・エレクトリックとシーメンスの3社を中心に上げ、その誕生から今日までの期間の「戦略と組織構造」、「機能」、「社会関係」について比較検討し、日本の企業・アメリカの企業・ドイツの企業の特徴を浮き彫りにするとともに、3国の企業の競争と協調、相互浸透の「国際関係経営史」にまで分析を進め、さらに20世紀企業あるいは、総合電機企業としての共通の特性も明らかにする総合的な研究を目的としていた。

3. 研究の方法

研究は「戦略と組織構造」、「機能」、「社会関係」、「国際関係経営史」の4つ「カテゴリー」について行われた。「カテゴリー」ごとに課題を達成するための「テーマ」が設定され、その「テーマ」を解明するために設定された複数の「トピック」を研究者が個別にあるいは共同で担当した。歴史研究にとっては歴史資料の存在が極めて重要な役割を果たすが、本研究ではこれまで個々の研究者によって収集された膨大な資料を電子化することによって共同利用を試みるとともに、内外の文書館で新たな資料の発掘を行った。

4. 研究成果

(1) 「戦略と組織構造」

多角化戦略と事業部制組織の各企業での展開を検討し、多角化戦略展開の動機と、事業部制組織形成の誘因を明らかにし、通説的理解の再検討を行うことができた。その結果、総合電機企業の多角化戦略が必ずしも未利用資源の有効活用を動機として展開されたのではないこと、また、「組織は戦略に従う」という命題に従って、多角化戦略が直ちに事業部制組織へと帰結するわけでもないことも明らかになってきた。さらに、多角化企業の優位性の根拠とされる「範囲の経済」の発生のメカニズムの解明と、複数の事業を自社の境界内に内包することによって発生するコスト(範囲の不経済)の解明が必要なことも分かってきた。

(2) 「機能」

各研究者が担当する研究で得た諸機能に関する資料と情報を整理蓄積し、次期の研究の土台形成ができた。

(3) 「社会関係」

ある戦略と組織がどのような協働の仕組みを作り上げ、人びとはどのような関係(社会関係)を取り結んだのか、そこでは、基幹労働者、技術者、マネージャーのカテゴリーが重要であり、その重要性は戦略の変化によって変化することが明らかになってきた。また、それに伴って企業内の教育システムも変化することが明らかになった。

(4) 「国際関係経営史」

特許をめぐる国際関係経営史、コンピュータ産業に関する国際関係経営史の研究を進展させることができた。

(5)さらに、富士コンファレンスを開催し、これまでの研究成果を報告すると同時に、外国の研究者と研究を交流することができた。それを通じて、知識依存型の産業である電気産業における組織能力は、従来型の産業のそれとは異なったものが形成されると想定されるので、その研究が重要であることが明らかとなった。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 12 件)

Sugayama, Shinji, Organizing rural-urban migration of young workers: roles of labor market institutions in postwar Japan, Asian Journal of German and European Studies, 査読有 4:2, 2019,1-21.

<https://ajges.springeropen.com/articles/10.1186/s40856-019-0039-z>

市原博、戦後日立工場における技術形成と技術者の職務行動・キャリア、社会経済史学、査読有、第 84 巻第 2 号、2019、3-24

長谷川信、『電子計算機ユーザー調査年報』1969、1971 年版の分析、青山経営論集、査読無、第 54 巻第 1 号、2019、3-22

石塚史樹、欧州の人事部 ドイツ企業における人事部・人事担当責任者の役割と企業内地位、日本労働研究雑誌、査読有、No.698、2018、38-50.

長谷川信、『電子計算機ユーザー調査年報』1976 年版の分析、青山経営論集、査読無、第 53 巻第 1 号、2018、3-23

<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/repo/repository/1000/20534/20534.pdf>

関口定一、20 世紀後半における大企業マネジメント層の性格と変容 GE Management Conference Directory の分析、企業研究(中央大学企業研究所)査読無、第 33 号、2018、143 - 164

谷口明文、ゼネラル・エレクトリック社の経営者群像：1913-1922、商学論纂、査読無、第 60 巻第 1・2 号、2018、91 - 135

西村成弘、日立製作所の特許管理 1908-1941、関西大学商学論集、査読無、第 63 巻第 2 号、2018、1-29

<https://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/bitstream/10112/16298/1/KU-1100-20180925-01.pdf>

石塚史樹、ドイツ企業における高度専門人材の労使関係と人的資源管理、生活経済政策、査読無、第 251 号、2017 年、26-33

西村成弘、両大戦間期アメリカ電機企業の研究開発と特許管理 GE とウェスチングハウス・エレクトリックの比較研究、関西大学商学論集、査読無、第 62 巻第 2 号、2017、69-90

<https://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/bitstream/10112/11460/1/KU-1100-20170925-04.pdf>

長谷川信、汎用コンピュータビジネスの成長と変化：日本電気のケース、青山経営論集、査読有、第 52 巻第 3 号、2017、25 - 47

<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/repo/repository/1000/20082/20082.pdf>

金容度、戦後日本のサラリーマン経営者の属性とキャリアパス - 日立、東芝、三菱電機 -、経営志林(法政大学経営学会)、査読無、第 54 巻第 3 号、2017、45 - 78

[学会発表](計 20 件)

Donzé, Pierre-Yves and Nishimura, Shigehiro, "Patent Strategy and Global Competition in the Electric Appliance Industry: Siemens, 1880-1945", Business History Conference, Cartagena, 2019.

Hasebe, Hiromichi, "From Works Manager Development to Global Leader Development -Historical Analysis of Hitachi's Executive Education and its Overhaul from the 1960s through the 2000s-", The 32nd International Conference on Business History (Fuji Conference), Kyoto University, Kyoto, 2018

Sugayama, Shinji, "The salaried employee's world and the worker's world", The 32nd International Conference on Business History (Fuji Conference), Kyoto University, Kyoto, 2018

Ichihara, Hiroshi, Job Behavior, Technological Capability Development and Job Carriers of Researchers and Engineers in Hitachi, Ltd. after the Second World War. The 32nd International Conference on Business History (Fuji Conference), Kyoto University, Kyoto, 2018

Uda, Osamu and Kondo, Hikaru, Myth of "Becoming General":The History of Computer Business in the U.S. and Japan Electrical Industries, 1950-1980, The 32nd International Conference on Business History (Fuji Conference), Kyoto University, Kyoto, 2018

Kim, Yongdo, The Career Paths of Directors and Organizational Capability in Hitachi, Ltd.,1950-1999 The 32nd International Conference on Business History (Fuji

Conference), Kyoto University, Kyoto, 2018
Tanaka, Yoko, Competitiveness and Technological Innovation in Manufacturing Industries in Germany and Japan from Historical Perspective, World Economic History Congress, Boston, USA, 2018
Hasebe, Hiromichi, "Sony's Contribution to the Dawn of Digital Music and the Unintended Consequences", World Economic History Congress, Boston, USA., 2018
Donzé, Pierre-Yves and Nishimura, Shigehiro, Patent Management and the Globalization of Firms: The Case of Siemens (1890-1945), World Economic History Congress, Boston, USA., 2018
西村成弘, 戦前期日本企業の特許管理、企業家研究フォーラム年次大会、2018年
Nishimura, Shigehiro, Patent Professionals: Patent attorneys and the establishment of patent system in modern Japan, ABH 2018 Conference, Milton-Keynes, UK, 2018
Kim, Yongdo, The Characteristics and Career Paths of Directors in Japanese Electronics Industry: Case of Hitachi, Toshiba and Mitsubishi Electric, ISA(Industry Studies Association) Annual Conference, Seattle, USA, 2018
Nishimura, Shigehiro, Financing the Laboratories: The role of RCA's patent management in the 1930s, BHC 2018 Annual Meeting, Baltimore, USA., 2018
Nishimura, Shigehiro, Globalizing Patent Portfolio: Foreign Direct Investment and Intellectual Property Management, BHC 2019 Annual Meeting, Cartagena, Colombia, 2018
谷口明丈、宮田憲一、平本厚、長谷川信、ピエール=イヴ・ドンゼ、宇田理, 多角化戦略と事業部制組織の比較経営史: 日米総合電機企業を中心に、経営史学会第53回全国大会、2017
長谷部弘道、日立における経営幹部候補生教育の確立-1960年代~1970年代を中心に-, 経営史学会第53回全国大会、2017
Donzé, Pierre-Yves and Nishimura, Shigehiro, Patent Strategy and Global Competition in the Electric Appliance Industry: Siemens (1880-1945), Business History Conference Meeting, 2017
石塚史樹, 独企業におけるインセンティブ制度の構築原理の形成、社会政策学会、2017
谷口明丈、金容度、ピエール=イヴ・ドンゼ、宮田憲一、関島康雄、石塚史樹、菅山真次、田中洋子, 日本の企業・アメリカの企業・ドイツの企業 総合電機企業の比較的研究、第52回経営史学会全国大会、2016
Nishimura, Shigehiro, GTCC Technology and the Reorganization of Global Alliances: Long-term Catching-up Process of Mitsubishi, 1st World Congress on Business History/ 20th Congress of the European Business History Association, 2016

〔図書〕(計 2 件)

市原博、菅山真次(若林幸男編) 学歴と格差の経営史、日本経済評論社、2018, 231 - 313
菅山真次(深尾京司・中村尚史・中林真幸編) 日本経済の歴史4 近代2、岩波書店、2017, 79 - 98

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：菅山 真次

ローマ字氏名：SUGAYAMA, Shinji

所属研究機関名：東北学院大学

部局名：経営学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：00202127

研究分担者氏名：宮田 憲一

ローマ字氏名：MIYATA, Kennichi

所属研究機関名：明治大学

部局名：経営学部

職名：助教

研究者番号(8桁)：00782351

研究分担者氏名：近藤 光

ローマ字氏名：KONDO, Hikaru

所属研究機関名：千葉経済大学

部局名：経済学部

職名：講師

研究者番号(8桁): 10762148

研究分担者氏名：関口 定一

ローマ字氏名：SEKIGUCHI, Teiichi

所属研究機関名：中央大学

部局名：商学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 20138613

研究分担者氏名：ドンゼ ピエール=イヴ

ローマ字氏名：DONZE, Pierre-Yves

所属研究機関名：大阪大学

部局名：経済学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁): 20635718

研究分担者氏名：市原 博

ローマ字氏名：ICHIHARA, Hiroshi

所属研究機関名：獨協大学

部局名：経済学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 30168322

研究分担者氏名：山崎 敏夫

ローマ字氏名：YAMAZAKI, Toshio

所属研究機関名：立命館大学

部局名：経営学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 30220320

研究分担者氏名：長谷川 信

ローマ字氏名：HASEGAWA, Shin

所属研究機関名：青山学院大学

部局名：経営学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 40144050

研究分担者氏名：石塚 史樹

ローマ字氏名：ISHIZUKA, Humiki

所属研究機関名：東北大学

部局名：経済学研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁): 40412548

研究分担者氏名：長谷部 弘道

ローマ字氏名：HASEBE, Hiromichi

所属研究機関名：杏林大学

部局名：総合政策学部

職名：講師

研究者番号(8桁): 40781282

研究分担者氏名：金 容度

ローマ字氏名：KIMU, Yongdo

所属研究機関名：法政大学

部局名：経営学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 70350212

研究分担者氏名：西村 成弘

ローマ字氏名：NISHIMURA, Shigehiro

所属研究機関名：関西大学

部局名：商学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 70511723

研究分担者氏名：宇田 理

ローマ字氏名：UDA, Osamu

所属研究機関名：日本大学

部局名：商学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 80298132

研究分担者氏名：平本 厚

ローマ字氏名：HIRAMOTO, Atsushi

所属研究機関名：東北大学

部局名：経済学研究科

職名：名誉教授

研究者番号(8桁): 90125641

研究分担者氏名：田中 洋子

ローマ字氏名：TANAKA, Yoko

所属研究機関名：筑波大学

部局名：人文社会系

職名：教授

研究者番号(8桁): 90202176

(2)研究協力者

研究協力者氏名：テル フレデリック

ローマ字氏名：TELL, Fredrick

研究協力者氏名：関島 康雄

ローマ字氏名：DEKIJIMA, Yasuo

研究協力者氏名：竹原 有吾

ローマ字氏名：TAKEHARA, Yugo

研究協力者氏名：安岡 邦浩

ローマ字氏名：YASUOKA, Kunihiro

研究協力者氏名：新井 利英

ローマ字氏名：ARAI, Toshihide

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。